

子供のために

先生が気づいて動ける チェックリスト



活用すると

- 子供の困難や特性を捉え、教育的ニーズを把握することができます
- 子供が安心できる環境を早期に整えることができます
- 本人の強みを意識した指導・支援の方向や内容が明確になります
- 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成に役立ちます

チェックリストの活用にあたって

子供たちが個性を活かし、能力を最大限に発揮しつつ、自立と社会参加を目指すためには、教員が子供のことを正しく理解し、適切な指導・支援を行うことが必要です。特に、発達障害があるなど特別な支援を必要とする子供については、早いうちに困っていることに気付いて必要な支援を行うことや、就学前から学校卒業後までの切れ目のない一貫した指導・支援体制を構築することが大切です。

この「子供のために先生が気づいて動けるチェックリスト」は、子供たちの実態を早期に把握し、本人の強みを生かした適切な支援を行うために作成しました。本チェックリストの活用が、子供たちと先生方の笑顔につながることを願っています。



このチェックリストは…

- 障害の有無を判断するためや医療機関への受診を促すためのものではありません。
- 教師が実態把握や支援に活用するもので、子供が自己チェック等のために用いるものではありません。

Q どんなときに 使えばいいの？

よく物を
なくすなあ

⇒ 子供のことが気になったら、まずは使ってみてください。

授業中に手遊びを
しているのは？

Q どのチェックリストを 使えばいいの？

⇒ 対象年齢や使用目的に応じて選びましょう。

○ 発達に関するチェックリスト(年長児編) / (就学時健康診断編)

保育場面や就学時健康診断等で見られる子供の姿から、発達に関する特徴を把握します。教育的対応について検討し、必要な支援を実践することができます。

○ 学校生活チェックリスト(小学校編) / (中学校・高等学校編)

学校生活等で見られる子供の姿から、学習や行動に関する特徴を大まかに把握します。教育的対応について検討し、必要な支援を実践することができます。

○ 支援検討チェックリスト(小学校編) / (中学校・高等学校編)

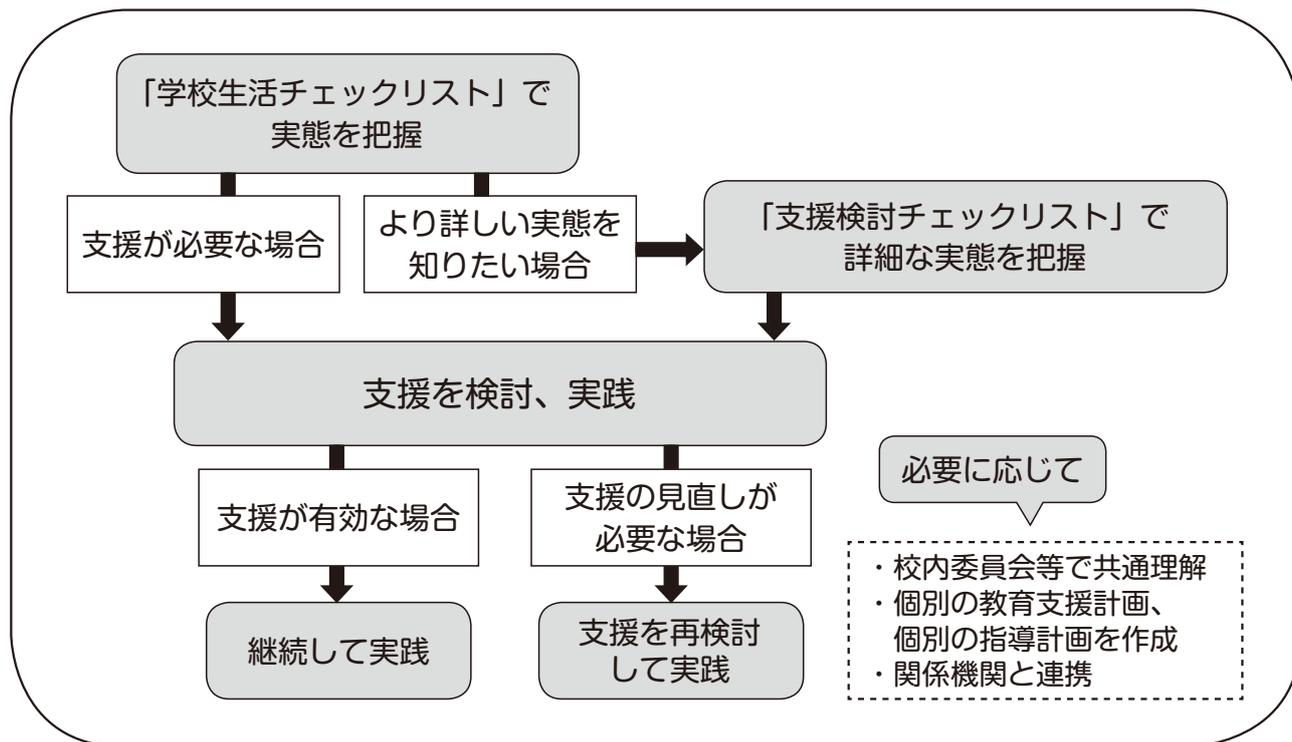
学習や行動等に関する実態をより詳細に把握します。本人の強みを意識した指導・支援の計画を立て実践することができます。個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成に役立ちます。

Q だれが チェックするの？

⇒ 主に、担任や子供と関わりのある教員が行います。
特別支援教育コーディネーターに相談しながら進めるとよいでしょう。

Q チェックした後は どうすればいいの？

⇒ 必要に応じて支援を始めましょう。



支援内容を検討する際には、

特別支援教育指導資料第102集

「特別支援教育 学びQ&A (指導事例集)」

(富山県教育委員会 平成28年3月発行) が参考になります。

富山県総合教育センターのHPからも閲覧・ダウンロードができます。

学び Q&A



有効な支援内容は、次年度の担任や進学先の学校に引き継ぎましょう。

< 管理職の方や特別支援教育コーディネーターの方へ >

- ・必要に応じてチェックリストの使用を勧めましょう。
- ・担任が一人で抱え込まないように、相談や助言に心掛けましょう。
- ・全校で支援ができるよう、協力体制を整えましょう。

活用のメリット

(1) 子供の困難や特性を捉え、教育的ニーズを把握することができる

学習面や行動面、社会性等、多面的に子供の実態を把握し、困難や特性を捉えることができます。また、気がかりな点が焦点化されることから、本人が必要としている支援や伸ばすとよい力を考えることができます。なお、実態把握や教育的対応の検討を複数の教員で行うことで、より一人一人に応じた教育的ニーズの把握につなげることができます。

(2) 子供が安心できる環境を早期に整えることができる

支援の必要性に早期に気づき、子供に必要な支援を提供できるので、子供は安心して学校生活を送ることができます。また、兆しの段階から支援することで、学習面や行動面等の問題が顕著になる前に防ぐことができます。特に、早急な対応を必要とする自己肯定感の低下や不登校等、二次的にみられる行動については、その背景を踏まえた上で、家庭や関係機関と連携して対応できるので、問題のさらなる深刻化、複雑化を食い止めることが期待できます。

(3) 本人の強みを意識した指導・支援の方向や内容が明確になる

「支援検討チェックリスト」では、本人の強みを更に伸ばそうとする視点で教育的ニーズを検討したり、強みを生かした支援内容や学習方法を考えたりすることができます。そして、このような指導・支援の方向や内容を、関係する教員で共通理解することができます。その結果、できないことや発達の遅れた面にばかり目を向け、苦手な課題を繰り返して劣等感を増幅させることを避け、子供の達成感につながる系統的な指導・支援が可能になります。

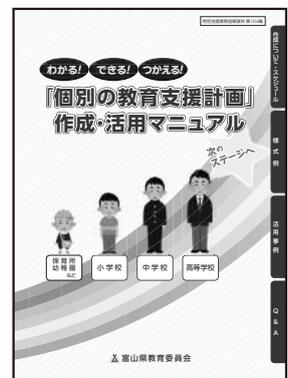
(4) 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成に役立つ

「支援検討チェックリスト」で行う実態把握や教育的ニーズの把握、本人・保護者の願いの聞き取りは、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成過程と重なっており、長期目標や合理的配慮を検討する際の参考になります。

【参考】特別支援教育指導資料第104集

わかる！できる！つかえる！「個別の教育支援計画」

作成・活用マニュアル（富山県教育委員会 平成31年3月 発行）



さらに、継続して活用することで、次の点が期待できます。

- 子供を見る際の視点が確立され、指導・支援のスキルアップにつながる
- 時間に余裕が生まれ、授業や学級経営の充実につながる

目次

■ 活用に当たって

■ 活用のメリット

I 就学前

- 1 発達に関するチェックリスト（年長児編）の活用方法と様式 7 ～ 8
【参考】 指導・支援の例 9

II 就学時健康診断

- 2 発達に関するチェックリスト（就学時健康診断編）の活用方法と様式 11 ～ 13

III 小学校

- 3 学校生活チェックリスト（小学校編）の活用方法と様式 15 ～ 16
【参考】 指導・支援の例 17
- 4 支援検討チェックリスト（小学校編）の活用方法と記入例 18
【記入例 ①】 小学校3年生のケース 19 ～ 24
【参考】 支援の検討・実践、個別の教育支援計画の作成 25
- 関係機関との連携 26

IV 中学校・高等学校

- 5 学校生活チェックリスト（中学校・高等学校編）の活用方法と様式 29 ～ 30
【参考】 指導・支援の例 31
- 6 支援検討チェックリスト（中学校・高等学校編）の活用方法と記入例 32
【記入例 ②】 中学校1年生のケース 33 ～ 38
【参考】 支援の検討・実践、個別の教育支援計画の作成 39
- 二次的にみられる行動は、大人に発している子供のSOSサイン 40
【記入例 ③】 高等学校1年生のケース 41 ～ 46
【参考】 支援の検討・実践、個別の教育支援計画の作成 47
- 自己理解・自尊感情について 48

■ あとがき

■ 参考文献



支援するときに気を付けたいポイント

【感覚の過敏性】

視覚・聴覚・臭覚・触覚・味覚の感じ方は人によって違います。

感覚の過敏さから不快に感じて、学習や行動上の困難さにつながっていることもあります。周りからは分かりにくいのですが、例のような行動から苦手さを捉えることができます。

(例：雑踏や人の多い場所を嫌がる、肌触りが悪い服を嫌がる、偏食があるなど)

不快に感じている刺激を減らすことで、落ち着いて取り組めることが増えると思われます。無理に直そうとすると逆効果になるので、本人や保護者と相談して支援を考えましょう。

【不器用さ】

不器用さのある子供は、体の動きがぎこちなかったり、道具を上手に扱えなかったりするため、運動や学習、遊びがうまくできないことがあります。

その要因は、両手がうまく使えない、感覚の受け取り方に偏りがある、力のコントロールが苦手、動きや形を捉える力が弱い、身体イメージが捉えにくいなどが考えられます。

これらの要因が重なっていることもあります。

「できないこと」を繰り返し練習させるよりも、子供の実態に応じて支援や指導の方法を変え、「うまくできた」という体験を積むことで、できる動作が増えていきます。

I 就学前



1 発達に関するチェックリスト（年長児編）の活用方法と様式

保育現場や相談会等での行動観察から、担任や観察者が回答します。

<実施手順>

質問項目をチェック

- ・○、△、無記入の3段階で回答します。

*「社会性」「こだわり・感覚の過敏性」「不注意」「多動性・衝動性」のうち、少なくとも一つの領域にチェックが集中する場合は発達に関するつまずきが予想されます。
*「理解力」にチェックが多い場合は、発達の遅れが疑われます。

特記事項を記入

- ・質問項目以外に気かりな言動がある場合に記入します。

チェックの数が少ない場合でも
担任が気になるときや
本人が困っていると思われる場合は
教育的対応を検討しましょう。

教育的対応を検討

- ・○や△が多く付いた領域は
『支援が必要』と捉えます。

感覚の過敏性は個人差が大きいので
あせらず本人や保護者と相談して
支援を考えましょう。

保護者や関係機関と連携して、必要な支援を始めましょう

在籍園は…

- ケース会議を開き、具体的な支援内容、方法を共有・実践する。
- 保健センター等へ、相談や支援要請をする。
- 地域のセンター校（特別支援学校）に相談・支援を要請する。
- 地区相談会や総合教育センター等での相談の活用を保護者に勧める。
- 子供の实態や効果のあった支援を小学校に引き継ぐ。

支援を考えるときには

特別支援教育指導資料第102集

「特別支援教育学びQ&A（指導事例集）」（平成28年3月発行）が
参考になります。

学び Q&A



富山県総合教育センターのHP から閲覧・ダウンロードできます。
<http://center.tym.ed.jp/>



※「発達に関するチェックリスト」の様式は、富山県総合教育センターのHPからダウンロードできます。

発達に関するチェックリスト（年長児編）

クラス		氏名		記入者		記入日	
-----	--	----	--	-----	--	-----	--

回答欄：よくある…○、ときどきある…△、当てはまらない…無記入

質問項目		回答欄	
社会性	1	同年齢の子供と、カルタや鬼ごっこ等、ルールのある集団遊びをすることが難しい。	
	2	欲しいものがあるときや手伝ってほしいときに、自分の思いを表すことが難しい。	
	3	同年齢の子供が遊んでいても興味を示さず、一人で遊んでいる。	
	4	友達とイメージを共有してごっこ遊びをすることが難しい。	
	5	相手が指さしても見ようとしない。	
こだわり・感覚の過敏性	1	同年齢の子供に比べて、特定のものに強く興味を示す。(カレンダー、図鑑、車等)	
	2	予定の変更や新しい場面で、不安になったり、パニックを起こしたりする。	
	3	自分のやり方や順番にこだわり、変更することを嫌がる。	
	4	ゲーム等で点数や勝ち負けにこだわり、負けそうになると機嫌が悪くなる。	
	5	雑踏等、人が大勢居る場所や特定の音を嫌がる。特定の服以外着ようとしない。	
	6	絵の具やのり、砂等で手や体が汚れることを極端に嫌がる。	
不注意	1	他の音や物に気を取られて、注意がそれてしまう。	
	2	一つの遊びに集中することができない。	
	3	一斉の指示を聞く事が難しい。	
	4	ぼんやりしていることがある。	
多動性・衝動性	1	相手の話に興味をもつと、すぐに割り込んでしまう。	
	2	嫌なことをされたと思うと、すぐに手を出してしまう。	
	3	力の加減ができず、物を壊したりけがをしたりする。	
	4	座っている間、体の一部を常に動かしている。	
理解力	1	片付ける場所や集まる場所を言葉で伝えても分からない。	
	2	遊びのルールや活動の手順を覚えることができない。	
	3	自分の名前を平仮名で書くことができない。	
	4	具体物を10まで数えることができない。	
	5	洋服の前後が分からない。	
不器用さ等	1	鉛筆の三指持ちができない。	
	2	はさみで円を切り抜くことが難しい。	
	3	動くボールを目で追ったり、ボールの動きに合わせて手を出したりできない。	
	4	ボタンやファスナーの留めはずしが難しいなど着替えに時間がかかる。	
特記事項	(例) 音の間き間違いがある。スキップができない。偏食がある。会話が成立しにくい。		

【参考】指導・支援の例（「学びQ&A」より抜粋）

例を参考に
支援をしてみましょう。



チェックが付いたら…

社会性 1 同年齢の子供と、カルタや鬼ごっこ等、ルールのある集団遊びが難しい。

学びQ&A
P.11

- ・イラストや文字等でルールを視覚的に示す。
- ・一緒に遊びながら見本を見せたり、事前に練習したりする。
- ・ルールを守っている子供をほめる。



こだわり・感覚の過敏性 2 予定の変更や新しい場面で、不安になったり、パニックを起こしたりする。

学びQ&A
P.9

- ・予定が変更になることを予告しておく。
- ・気持ちを落ち着ける言葉を教える。（「まあいいか」「こんなこともある」など）
- ・変更の理由や内容について、イラストや文字で視覚的に示す。
- ・落ち着ける場所でクールダウンの時間をとる。落ち着いてから次にすることを伝える。

多動性・衝動性 2 嫌なことをされたと思うと、すぐに手を出してしまう。

学びQ&A
P.6

- ・10までカウントする、深呼吸するなど一呼吸おく練習をさせる。
- ・「やめて」などと言葉で言うように練習させる。言葉で言えたときは、できるだけ本人の欲求を満たし、言葉で伝わったという成功体験を積ませる。
- ・「嫌だったんだよね」などと子供の思いを理解し、どうすればうまくいくか一緒に考える。

理解力 1 片付ける場所や集まる場所を言葉で伝えても分からない。

学びQ&A
P.7

- ・片付ける場所にマークや写真を付ける。
- ・初めは保育者と一緒に行く。慣れてきたら指さしや言葉かけで示す。できるようになったら少し離れて見守るなどしていく。
- ・動線ができるだけ短くなるように環境を工夫する。

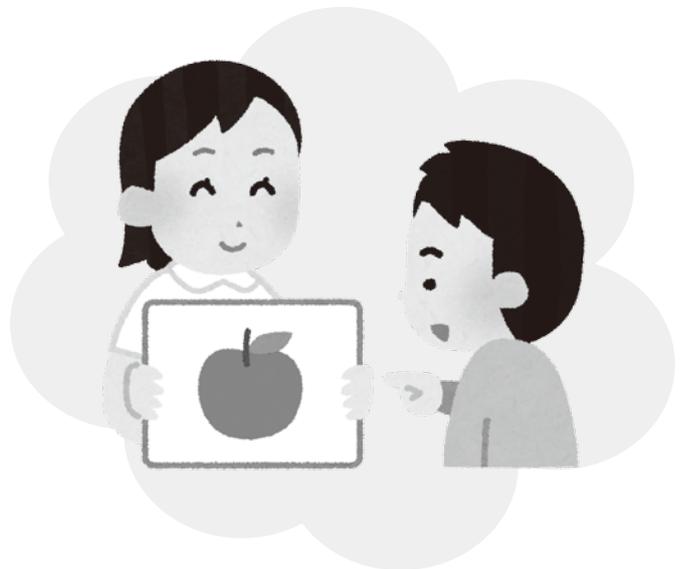
不器用さ 4 ボタンやファスナーの留めはずしが難しいなど着替えに時間がかかる。

学びQ&A
P.4~5

- ・握ったりつまんだりする活動を取り入れる。（ちぎり絵、新聞ボール作り等）
- ・右手と左手の役割が異なる活動を取り入れる。（粘土、折り紙等）
- ・目と手の協調を養う活動を取り入れる。（風船遊び、積み木積み等）
- ・身体イメージを高める遊びを行う。（トンネルくぐり、アスレチック等）

II 就学時健康診断

II 就学時健康診断



2 発達に関するチェックリスト(就学時健康診断編)の活用方法と様式

就学時健康診断での行動観察から、観察者が回答します。

<実施手順>

事前準備

- ・ 観察方法を決めて、様式を整えます。

活用例 (P.13) を参考にして学校の実態に合わせて使ってください。

当てはまる項目をチェック

教育的対応を検討

- ・ ケース会議で話し合います。
- ※ チェックが付いた項目は、『**支援が必要**』と捉えます。

チェックの数が少ない場合でも、観察時の言動がとても気になるときは、一度支援の必要性を検討しましょう。

在籍園や保護者から情報収集

- ・ 日頃の様子や既に行われている支援等を聞き取ります。
- ・ 在籍園を訪問して行動を観察します。

聞き取りや行動観察では、「発達に関するチェックリスト」(年長児編)が参考になります。

保護者や関係機関と連携して、入学後の支援を考えましょう

- 入学後の適切な学びの場を検討する際の参考にする。
- 在籍園での支援に役立ててもらうため、情報を提供する。

支援を考えるときには

特別支援教育指導資料第102集

「特別支援教育学びQ&A (指導事例集)」(平成28年3月発行)が参考になります。

学び Q&A



富山県総合教育センターのHP から閲覧・ダウンロードできます。
<http://center.tym.ed.jp/>



※「発達に関するチェックリスト」の様式は、富山県総合教育センターのHPからダウンロードできます。

発達に関するチェックリスト (就学时健康診断編)

No. 実施日： 月 日 記入者：

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
行動観察の視点											
社会性	1	保護者と離れることを嫌がる。									
	2	名前、質問など聞かれたことに答えることができない。									
	3	順番が待てず、並ぶことができない。									
	4	周りをきよきよと見ることが多い。									
	5	黙っていられず、勝手に発言する。									
	6	座っているときに体を動かしている。									
理解力 不器用さ	7	一斉の指示が分からず、個別の指示であれば活動できる。									
	8	自分の名前が書けない。									
	9	鉛筆の持ち方がおかしい。									
	10	検査用紙をめくって折ることに手間取る。									
感覚の過敏性 基本的 生活習慣	11	耳をふさぐ。触られることを嫌がる。									
	12	身だしなみが整っていない。 (シャツが出ている、かかとを踏んでいる、靴下をはいていない など)									
		<メモ>									

【活用例①】 受診や適性検査など場面毎に観察する場合

行動観察の視点		受	受	適	移	待	そ
		付	診	性	動	機	他
社会性	1	保護者と離れることを嫌がる。					
	2	名前、質問など聞かれたことに答えることができない。	3-④	場面毎に視点を絞って観察			
	3	順番が待てず、並ぶことができない。					
多動性 衝動性	4	周りをきょろきょろと見ることが多い。			4-②		
	5	黙っていられず、勝手に発言する。	受付番号を記入		2-①		
	6	座っているときに体を動かしている。					
理解力 不器用さ	7	一斉の指示が分からず、個別の指示であれば活動できる。			1-⑤		
	8	自分の名前が書けない。					
	9	鉛筆の持ち方がおかしい。					
	10	検査用紙をめくって折ることに手間取る。					
感覚の過敏性 基本的 生活習慣	11	耳をふさぐ。触られることを嫌がる。					
	12	身だしなみが整っていない。 (シャツが出ている、かかとを踏んでいる、靴下をはいていない など)					

<受付場面で>



<適性検査場面で>



【活用例②】 一人一人について観察する場合

行動観察の視点		1	2	3	4	5	6
		富山翔	庄川鮎美	総教平	立山花子	黒部空	
社会性	1	保護者と離れることを嫌がる。					
	2	名前、質問など聞かれたことに答えることができない。			○		
	3	順番が待てず、並ぶことができない。	○		○		
多動性 衝動性	4	周りをきょろきょろと見ることが多い。					
	5	黙っていられず、勝手に発言する。	○				



富山くんは指示の前に答えたり列から離れたりすることが多いなあ入学後に支援が必要かも…

III 小学校



III 小学校

3 学校生活チェックリスト（小学校編）の活用方法と様式

対象は、気がかりに思っている児童です。
担任及びその児童と関わりのある教員が回答します。

<実施手順>

質問項目をチェック

・○、△、無記入の3段階で回答します。

○と△の数を記入

教育的対応を検討

・○や△が多く付いた領域（A～G）は『**支援が必要**』と捉えます。

本人に必要な支援を始めましょう

支援を始めるにあたっては、本人、保護者の理解を得ることが大切です。
※感覚の過敏性は個人差が大きいので、あせらず本人や保護者と相談して進めましょう。



チェックの数が少ない場合でも
担任が気になるときや
本人が困っていると思われる場合は
教育的対応を検討しましょう。

次の場合も支援が必要と考えられます。
○学校でほとんどしゃべらない
○無気力又は意欲がないように見える
○ささいな注意でも被害的に捉える

など

これらは、二次的にみられる行動かもしれません。支援検討チェックリストの「IV二次的にみられる行動」をチェックしてみましょう。

支援を考えるときには

特別支援教育指導資料第102集

「特別支援教育学びQ&A（指導事例集）」（平成28年3月発行）が参考になります。

学び Q&A



富山県総合教育センターのHP から閲覧・ダウンロードできます。
<http://center.tym.ed.jp/>



さらに詳しい実態を知りたい場合、個別の教育支援計画等を作成したい場合は「**支援検討チェックリスト（小学校編）**」を実施してみましょう。

※「学校生活チェックリスト」、「支援検討チェックリスト」の様式は、富山県総合教育センターのHPからダウンロードできます。

学校生活チェックリスト（小学校編）

学年・組		氏名		記入者		記入日	
------	--	----	--	-----	--	-----	--

回答欄：よくある…○、ときどきある…△、ない…無記入

		質問項目	回答欄	領域
登校・朝	1	通学中に、興味のある物を見付けると（集団登校の列からはずれ）見に行く。		B
	2	日直等係の仕事を最後までやり遂げられない。		B
	3	時間割変更や活動の手順の変更があると、怒ったり対応できなかったりする。		F
授業 (通常の学習・行事等)	4	忘れ物をしたり、机の中が整理できなかったりする。		B
	5	手足をそわそわ動かしたり、体を絶えず揺すったりする。		C
	6	教師の質問が終わらないうちに答えたり、指名されていないのに回答したりする。		C
	7	球技等をするとき、仲間と協力できない。		D
	8	授業内容と関係のない質問をする。		E
	9	聞いた内容を覚えられない。		A
	10	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。		A
	11	考えを話すとき、言葉につまる。		A
	12	見たことや体験したことを順序立てて話すことが難しい。		A
	13	文中の語句や行を読み飛ばしたり、読み間違えたりする。		A
	14	文章の内容理解が難しい。		A
	15	漢字の細かい部分や拗音、促音等を書き間違える。		A
	16	黒板の字を写すことに時間がかかる。		A
	17	計算に時間がかかる。		A
	18	算数の文章題から式を立てることが難しい。		A
19	作文や日記等文章を書くとき、内容や文の構成を考えることが難しい。		A	
休み時間	20	友達と仲良くしたい気持ちはあるが、関係をうまく築けない。		D
	21	友達のそばにいても一人で遊んでいる。		D
	22	相手の言うことを言葉どおりに受け止めてしまう。		E
	23	「太ってるね」など、他者が聞いて気分を害する言葉を感じたまま口にする。		E
	24	点数や勝敗にこだわり、負けそうになると機嫌が悪くなる。		F
	25	雑踏や人の多い場所、特定の音やにおいを嫌がる。		G
	26	体に触られることを嫌がる。		G
給食	27	当番であることを忘れて遊びに行ってしまう。		B
	28	偏食がある。（白ご飯は食べるが、赤飯や炊き込みご飯等、他の物が混ざったり色がついていたりすると食べられないなど）		F
掃除	29	掃除中等に、周りの友達にちょっかいをかける。		C
下校	30	仲の良い友達がおらず、一人で下校している。		D

	Ⅰ 学習面	Ⅱ 行動面		Ⅲ 社会性			
	A 学習面	B 不注意	C 多動性・衝動性	D 人とのかかわり	E コミュニケーション	F 興味・こだわり	G 感覚の過敏性
△の数	/11	/4	/3	/4	/3	/3	/2
○の数	/11	/4	/3	/4	/3	/3	/2

【参考】指導・支援の例（「学びQ&A」より抜粋）

例を参考に
支援をしてみましょう。



チェックが付いたら…

4 忘れ物をしたり、机の中が整理できなかつたりする。

学びQ&A
P.28

- ・帰りに、翌日の提出物のメモを机に貼っておく。
- ・授業の終了後、すぐに文房具を筆箱に入れたか確認し、できていればほめる。
- ・個人の棚や机の中の道具箱等に何を収納するか書いて貼っておく。

6 教師の質問が終わらないうちに答えたり、指名されていないのに回答したりする。

学びQ&A
P.14

- ・相手の同意を得てから話すというルールを設定する。
- ・周りの子供がどのように感じているかを教える。

13 文中の語句や行を読み飛ばしたり、読み間違えたりする。

学びQ&A
P.15

- ・言葉のまとまりごとに印を付ける。(スラッシュを入れる、単語を丸で囲むなど)
- ・板書やプリント等は、行間を広めにする。分かち書きにし、言葉の途中で改行しない。
- ・単語にイメージできる絵を添える。
- ・単語や文章の内容を理解させてから音読する。

24 点数や勝敗にこだわり、負けそうになると機嫌が悪くなる。

学びQ&A
P.30

- ・「失敗は成功のもと」「負けるが勝ち」などのキーワードの意味を教える。
- ・自分の思いどおりにならなくても我慢するための合い言葉（「まあいいか」「こんなときもある」など）やポーズを一緒に考える。
- ・落ち着かなくなったときに行く場所を用意しておく。

25 雑踏や人の多い場所、特定の音やにおいを嫌がる。

学びQ&A
P.25

- ・机やいすの足に防音材を付ける。
- ・どうしても我慢できないときは、居場所を知らせてから教室を出るというルールを事前に決めておく。
- ・視覚、聴覚、触覚等の感じ方は人によって違うことを説明し、クラス全員の子供に感覚の過敏さへの理解を促す。

4 支援検討チェックリスト(小学校編)の活用方法と記入例



児童の実態を詳しく把握したい場合に活用します。

担任及びその児童と関係の深い教員が 複数で協議しながら 回答、作成します。
作成に際しては、記入例 (P.19～) を参考にしてください。

<実施手順>

実態把握

質問項目をチェック

- ・○、△、無記入の3段階で回答します。
- ※英語の項目…低学年は回答しません。

特別支援教育コーディネーターと
一緒に考えましょう。



「Ⅳ 二次的にみられる行動」に
一つでもチェックが付いたら
早急に対応を考えましょう。

要因の確認と強みの発見

「考えられる要因」をチェック

- ・各項目や日頃の様子を関連付けて選びます。
- ※分からない場合、飛ばして進んでもよいです。

<<支援検討シートの記入の仕方>>

強みとして生かせそうな点

- ・Ⅰ～Ⅲの質問項目で、○が付かなかった領域や項目、日頃の様子から選んで記入する。
- ・() には、強みとして生かせそうな能力を記入する。

気がかりな点

- ・Ⅰ～Ⅲで、○が付いた項目や日頃の様子から選んで記入する。
- ・() には、考えられる要因を記入する。

その他

- ・本人の好きなことや特技、Ⅳでチェックが付いた項目や特記事項、障害名や検査結果等を記入する。

伸ばしたい力

- ・本人の強みや少し努力すれば達成できそうな点を考え記入する。

配慮すべきこと

- ・気がかりな点から配慮点を考え記入する。
- ※二次的にみられる行動への対応は必ず記入する。

整理

「支援検討シート」を記入

個別の教育支援計画や 個別の指導計画に活用

【参考】

わかる！できる！つかえる！「個別の教育支援計画」作成・活用マニュアル

教員間や関係機関と連携しながら、指導・支援を始めましょう

分からないときは「学びQ&A」を参考にしたり、地域の特別支援学校や教育事務所、
富山県総合教育センターに相談したりしましょう。

I 学 習 面

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質 問 項 目		回答欄
聞 く	① 聞き間違いがある。(「知った」を「行った」と聞き間違えるなど)	
	② 聞いた内容を覚えることが難しい。 興味があることであれば、見聞きしたことを覚えている	
	③ 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では注意を向けて聞くことが難しい。	
	④ 聞いたことの内容の理解が難しい。	
	⑤ 話合いが難しい。 (話合いの流れや前後の意見との関連付けが理解できず、ついていけないなど)	△
話 す	① 適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話す、とても早口であるなど)	
	② 考えを話すとき、言葉をすぐに思い出せず、言葉につまる。 気持ちを伝えるときに多い	○
	③ 語彙が乏しく、表現の仕方が分からない。	
	④ 見たことや体験したことを順序立てて話すことが難しい。 体験したことを時系列で話す	
読 む	① 初めて出てきた語や、普段あまり使わない語等を読み間違える。	○
	② 文中の語句や行を抜かしたり繰り返し読んだり、読んでいる場所が分からなくなる。	○
	③ 音読に時間がかかる、またはたどたどしい。	○
	④ ぱっと見て、思い込みで文を読んでしまう。(「いきました」を「いました」と読むなど)	○
	⑤ 文章の内容の理解が難しい。	○
書 く	① 読みにくい字を書く。(字の形や大きさが整わない まっすぐではないなど)	
	② 同じ読み方でも意味の異なる漢字を書く。(「黒板」を「国板」と書くなど)	△
	③ 漢字の細かい部分や拗音、促音等を書き間違える。	△
	④ 黒板が写せない。時間がかかる。	○
	⑤ 限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書けない。	○
計 算 す る	① 桁の大きい数字が読めない。	
	② 指を使って計算する。計算にとっても時間がかかる。	
	③ いくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい。(四測混合の計算、方程式など)	
	④ 学年相応の文章題の式を立てることが難しい。	
推 論 す る	① 学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい。 (長さやかさの比較「15cmは150mm」ということなど)	
	② 見取り図や展開図の理解が難しい。	△
	③ 事物の順序や因果関係を理解することが難しい。	
	④ 目的に沿って行動を計画したり、必要に応じて計画を修正したりすることが難しい。	
外 国 語	① 簡単な語句や基本的な表現を聞いて、意味を理解することが難しい。	
	② 簡単な語句や基本的な表現をまねて言うことはできるが、すぐ忘れてしまう。	
	③ アルファベットが正確に書けない。(大文字と小文字、bとdの区別など)	

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。

「読む」「書く」に
○が多いのはなぜ?



【記入例①】 小学校3年生のケース

2) 前ページで○が付いた項目(気がかりな点)の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見>

「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

特別支援教育コーディネーターと一緒に考えられる範囲で付けましょう

- 聞く力 (聞き分け、聞き取り、音の取捨選択等)
- 見る力 (注視、追視等)
- 文字と音を一致させたり正しく並べたりする力
- 形や空間の広がりを理解する力 (形の弁別、位置関係、空間認知、目と手の協応等)
- 身体の動き (粗大運動、微細運動、協調運動、力の加減、道具の使い方、滑舌等)
- 知っている言葉の数 (語彙数)
- 言葉や文字等を記憶する力
- 言葉や文字等を思い出す力 (想起)
- 単語を見て意味をイメージする力 (抽象的な語、気持ちを表す語等)
- 文の意味を理解する力
- まとめる力 (順序立て、因果関係、関連付け、要点の把握)
- 数を見て量や長さをイメージする力
- 数を頭の中で操作する力 (合成分解)
- その他の力 (Ⅱ行動面・Ⅲ社会性) との関連



「読む・書く」のつまずきに共通する要因は「見る力」ね

「不注意」も関係しているような…

普段使わない言葉や抽象的な語が文中にあると読みづらいみたい
「意味をイメージする力」が弱いよね



なるほど!

3) 「Ⅴ 支援検討シート」に記載する内容を整理しましょう

「強みとして生かせそうな点」…○が付かなかった領域や質問項目、日頃の様子から選ぶ。

「✓」が付かなかった能力を関連付けるとなおい。

「気がかりな点」…○が付いた領域や質問項目、要因を記入する。



「計算・聞く」ことは得意だね「聞いたことを記憶する力」も強みとして生かせそう!

見聞きしたことを順序立てて話せるといいわね



覚えた知識を人に話したい気持ちが強いみたい

板書や宿題の量は調整してあげましょう (配慮点)



Ⅱ 行 動 面

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質 問 項 目		日頃の様子(メモ)	回答欄
不 注 意	① 学校の勉強で、細かいところまで注意を払わない、不注意な間違いをする。	問題文を読まずに解こうとする	○
	② 課題や遊びで注意を集中し続けることが難しい。	サッカーの試合では集中力が途切れることは少ない	△
	③ 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える。		
	④ 他の活動や話題に注意がそれてしまい、課題を完了することが難しい。	できると思った課題には最後まで取り組む	△
	⑤ 学習課題や活動を段取りよく行うことが難しい。		
	⑥ 学習課題や活動に必要な物を忘れやすい。		△
	⑦ 気が散りやすい。	授業と関係ない音に反応してよそ見をしていることがよくある	○
多 動 性 ・ 衝 動 性	① 手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする。		
	② 授業中や座っているべきときに席を離れてしまう。		
	③ 質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう。		△
	④ 順番を待つことができない。		
	⑤ 他人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする。		

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。

2) 上記で○が付いた項目(気がかりな点)の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見>

「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

 気が散るのは「注目する力・持続力」の弱さが関係しているね

不注意な間違いは「集中力」の低さと読みに対する苦手意識が影響してるわ



必要な情報を選択し注目する力

持続力

ルールや順番の遵守

多動性

その他の力 (Ⅰ学習面・Ⅲ社会性) との関連

集中力・集中の度合い

記憶力

物の整理・整頓

衝動性

 注目させてから話すことを心掛けよう! (配慮点)

※学力が高すぎるために不注意や無気力にみえることがあります

3) 「Ⅴ 支援検討シート」に記載する内容を整理しましょう

「強みとして生かせそうな点」…○が付かなかった領域や質問項目、日頃の様子から選ぶ。

「✓」が付かなかった能力を関連付けるとなおよい。

「気がかりな点」…○が付いた領域や質問項目、要因を記入する。



得意なことや好きなことだったら「集中力」は高まるみたい

問題文の読み上げを検討しましょう (配慮点)



Ⅲ 社会性

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質問項目		回答欄
人とのかわり	① 共感性が乏しい。あいづちを打つ、微笑むなど共感する言動が少ない。 <small>口頭の様子 (メモ)</small>	△
	② 周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言う。	△
	③ 友達と仲良くしたいという気持ちはあるが、友達との関わり方が分からず、関係がうまく築けない。 <small>会話中に言い争いになることが多い</small>	○
	④ 友達のそばにいるが、一人で遊んでいる。 <small>特定の友達と抱っこをしている</small>	
	⑤ 球技やゲームをするとき、仲間と協力することが難しい <small>体育では友達と協力している</small>	
コミュニケーション	① 相手の言うことを言葉どおりに受け止めてしまうなど、前後の状況から意味を想像することが難しい。 <small>励ましの言葉も注意と受け取ることがある</small>	△
	② 言葉のキャッチボールができない。	△
	③ 会話の仕方が形式的で、抑揚なく話したり、独特な声で話したりする。	
	④ 誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す。 (唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶなど)	
	⑤ いろいろな話を話すが、そのときの場面や相手の感情や立場を理解しないで話す。	○
興味関心・こだわり	① みんなから、「○○博士」「○○教授」と思われている。(カレンダー博士等) <small>サッカーチームに所属する知識が豊富</small>	○
	② 特定分野での知識を蓄えているが、丸暗記であり意味をしっかりと理解していない。	
	③ とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある。	○
	④ 自分なりの独特な日課や手順がある。	
	⑤ 見通しがもてない突然の予定変更や変化を嫌がる。	
	⑥ 特定の音や触感に対する強い拒否反応がある。	
自己理解	① 自分の得意、不得意が分からない。	
	② 自分のやりたいことがみつからない。	
	③ 不得意分野の対処法を知らない。 <small>困っていると云えない</small>	△
その他	① 独特な目つきや表情をする。(場面に関係なくにやける、薄目でいるなど)	
	② 動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちない。 <small>「その他」の行為については無理に指導せず見守る</small>	
	③ 意図的でなく、顔や体を動かす。	
	④ 独特な姿勢をしている。(常に背筋が伸びている、低緊張で姿勢が保持できないなど)	

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。

2) 上記で○が付いた項目(気がかりな点)の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見>

「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

- 相手の心情の理解・気持ちの共有
- コミュニケーション(関わり方)スキルの獲得
- ルール(順番も含む)の理解
- 行動調整
- 感覚の過敏さ・鈍感さ
- 情緒面(不安が大きい、意欲がないなど)

- 状況の理解
- 興味の偏り
- こだわり
- 想像力・見通し
- 特徴的な行動

「状況や心情の理解」の弱さや会話スキルの未獲得が要因ね

言葉のやりとりでトラブルが多いみたい

「ルールの理解」は強みとなりそう

Ⅳ 二次的にみられる行動

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質問項目	回答欄
① 不登校、保健室登校、遅刻や早退がみられる。	
② 医学的な原因が見つからないが、腹痛や頭痛を訴える。	
③ 無気力又は意欲がない様子がみられる。 (授業中突っ伏して眠る 宿題を提出しないなど)	
④ ささいなことですぐにかんしゃくをおこす。	
⑤ ちょっと注意されたことをひどく怒られたように被害的に捉える。	△
⑥ 「どうせできない」など自己否定的な言動がある。	○
⑦ 極端に手洗いを続けたり、汚れを嫌ったりする。	
⑧ 先生や友達に対して、極端な暴言や暴力をふるう。	
⑨ 他人のものを盗ったり、隠したりする。	
特記事項 (例) 虚言が多い。死にたいと言う。苦手なことに取り組もうとしない。ほめられても無反応である。摂食障害等	

2) 上記で○が付いた項目の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認>

<input checked="" type="checkbox"/>	成功体験の不足・失敗体験 ◆		発達のみずきが原因で、失敗経験が重なり、自己肯定感が下がっているのね
<input type="checkbox"/>	他者への恐怖感 ◆		
<input checked="" type="checkbox"/>	自己有用感・自己肯定感 ◆		
<input type="checkbox"/>	家族関係・生活環境		
<input type="checkbox"/>	教師や友人との関係・学習環境		
<input type="checkbox"/>	トラウマな出来事		

なるほど！でも、そんなときはどう接すればいいんですか？



一旦本人の気持ちを聞いてあげるといいわ



成功体験を積めるように一緒に考えていきましょう！

3) 本人の心情や取り巻く環境に関して、**早急に教育的対応を考えましょう。**

※一つでもチェックが付く、もしくは特記事項に記載がある場合は、必ず対応を考えます。

- ・校内や保護者、関係機関と連携して対応を考えます。
- ・◆の要因については、Ⅰ学習面・Ⅱ行動面・Ⅲ社会性の結果を踏まえて対応を考えていく必要があります。

V 支援検討シート

学年・組	3年1組	氏名	富山 万寿雄	記入者	立山 雷太	作成日	○年○月○日
------	------	----	--------	-----	-------	-----	--------

本人に関する情報		※質問項目や日頃の様子等を転記	
	強みとして生かせそうな点		気がかりな点
I 学習面	<ul style="list-style-type: none"> テレビ等で見聞きした内容を専門的な語句を使い話す。(聞く力・言葉を記憶する力) 体験したことを時系列で話す。 計算する。 <p>()は「強みとして生かせそうな能力」です</p>	<ul style="list-style-type: none"> 初めて出てきた語や普段あまり使わない語等を読み間違える。(意味をイメージする力) 黒板が写せない、時間がかかる。(見る力) 考えを話すとき言葉につまる。(気持ちを表す言葉) <p>()は「考えられる要因」です</p>	
II 行動面	<ul style="list-style-type: none"> サッカーの試合では集中力が途切れることは少ない。(集中力) できると思った課題には最後まで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強で細かいところまで注意を払わない、不注意な間違いをする。(集中力、意欲) 気が散りやすい。(注目する力、持続力) 	
III 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間には特定の友達と鬼ごっこをして遊んでいる。 体育では、ルールを守り友達と協力している。(ルールの理解) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と仲良くしたい気持ちはあるが、関係がうまく築けない。(状況や心情の理解、コミュニケーションスキル) いろいろなことを話す、そのときの場面や相手の感情、立場を理解しないで話す。(状況や心情の理解) 困っていると言えない。(自己理解) 	
その他	<p>【好きなこと・特技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲーム、サッカー、理科が好き。 サッカーチーム、歴史上の人物に関する知識が豊富。 自分もっている知識を積極的に周りの人に話す。 	<p>【二次的にみられる行動】</p> <p>※教育的対応を「配慮すべきこと」に必ず記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己否定的な言動が多い。 被害的に捉えることがある。(成功体験の不足、自己肯定感の低下) 	
<p>【診断名・検査結果等】</p> <p>WISC-IV (○年○月：A病院) FSIQ86 (VCI:103、PRI:76、WMI:79、PSI:94)</p>			



伸ばしたい力		※本人に関する情報から少し努力すれば達成できそうな点を記入	
	<ul style="list-style-type: none"> 見聞きしたことを分かりやすく話す。(聞く力・言葉を記憶する力) サッカーやゲームの攻略本等の単文を読む力(集中力、意味をイメージする力) 気持ちを表す言葉を覚える。 状況に応じた話し方や聞き方を身に付ける。 		<p>強みとして生かせそうな点からさらに伸ばしたい点を考えるとよいでしょう</p>

願い (現在の希望・将来の夢)	
本人	<ul style="list-style-type: none"> 友達と楽しく遊びたい。 サッカー選手になりたい。 勉強ができるようになりたい。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きが上手になってほしい。 自分の思いや考えを言葉でうまく伝えられるようになってほしい。 高校には行ってほしい。

配慮すべきこと
<ul style="list-style-type: none"> 読みに関する配慮 [スラッシュ、問題文の読み上げ] 書きに関する配慮 [板書や宿題の量] 注意喚起を促す言葉掛け ※問題行動に対する言葉掛け [一旦本人の思いを受け止める、優しい口調]

【参考】

支援の検討・実践

○「伸ばしたい力」については、「強みとして生かせそうな点」を取り入れた支援を考えましょう。



どのように取り入れればよいのかな？

全ての力について一度に考えようとせず、優先順位を付けて進めるといいわ



誰がどんな場面で支援をするか、具体的に考えるといいわね

富山万寿雄さん（記入例①）の場合

「状況に応じた話し方や聞き方を身に付ける」ためには…



「見聞きしたことを記憶する」ことが得意だから、モデルや絵を見せて説明しよう



「ルールの理解」が強みだから、話し合いのパターンやポイントを示すといいかも

誰が	どんな場面	どんな支援
担任	体育 (サッカーの試合)	<ul style="list-style-type: none"> チームで作戦を立てる時間をもつ。 意見を言う、聞くときのポイントを絵やモデルを提示しながら事前に説明する。モデル役で模擬体験できるようにする。 聞き方や話し方で良かった点を具体的に伝え、褒める。
	帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> 友達と上手に関わっていた子供の姿を具体的に紹介する。
学年の教師・指導員	休み時間・学童	<ul style="list-style-type: none"> 身近な大人が、遊びの輪の中に入ってモデルを示す。 良い関わり方があればその場で褒める。
父母	自宅での余暇	<ul style="list-style-type: none"> ボードゲームやトランプ等の遊びに関わり方のモデルを示す。

「学びQ & A」を参考にしてください（下記参照）



個別の教育支援計画の作成

○3年後を想像し、「伸ばしたい力」から目標を考えましょう。

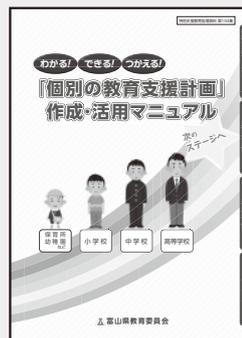


どんな目標を立てるといいのかな？

例 状況に応じた話し方を身に付け、困ったときに助けを求めることができるようにする。
気持ちを表す言葉を覚え、思いや考えを言葉で伝えることができるようにする。

特別支援教育指導資料第102集
「特別支援教育学びQ&A（指導事例集）」
(富山県教育委員会 平成28年3月発行)

特別支援教育指導資料第104集
わかる！できる！つかえる！
「個別の教育支援計画」作成・活用マニュアル
(富山県教育委員会 平成31年3月発行)



○ 関係機関との連携 ○

発達障害等、気がかりな子供に対してよく連携と言われます。連携とは、「目的を同じくするもの同士が連絡し、協力しあって何かをすること」と辞書にあります。子供の成長のために、関係機関と子供の実態について連絡し、協力しあって、子供がいろいろな場で困ることなく生活・学習が出来るように家庭環境や教育環境を整えることが連携です。

子供の教育的支援において重要な役割を果たす機関としては、幼・小・中・高・特別支援学校の他に、児童福祉施設、健康センター、病院等の福祉機関や医療機関があります。

それぞれの機関が連携を構築するための土台として、まずは、早期からの保護者と教育者との信頼関係を築くことが大切です。特に発達障害の場合、気になるのは、言葉の発達面と行動面です。子供は、家庭での様子と保育・教育の場で示す状況が異なることがあります。保護者は、家庭では言葉をあまり話さなくても不自由を感じないし、落ち着きのなさ等の行動面は我が子の性格であり個性だと思っています。保育・教育の場で、担当者が困っているのではなく、子供自身が困っている事実を知らせます。そして、一緒に子供への支援や対応を考えます。

医療機関や福祉機関への診察や相談を進める場合は、子供の直接の担当者でなく、副園長、教頭、主任等が伝えるようにします。保育・教育の場が、全体の組織体制で自分の子供を見て育ててくれていると、保護者は安心します。保護者が医療機関等に行ったときの様子も保護者から聞きます。そして、医療機関等での診断を基に助言・指導を受け、子供へ具体的な働きかけをします。また、保護者の了解を得て、担当者が医療機関と連絡を取り合ったり、面談したりすることも可能です。

一方、乳幼児の段階から、関係機関が連携した子供への支援に関する計画を少しずつ作成していくことが大切です。そうすれば、どのような機関と関わり、どのような支援がされたかが分かり、小・中学校の段階で「個別の教育支援計画」を作成するとき、役立ちます。用紙一枚で連携が可能になります。

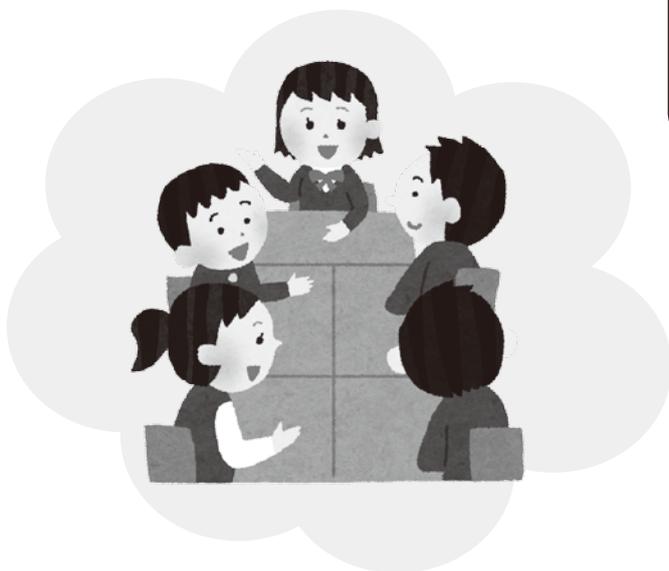
幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校には、特別支援教育コーディネーターが配置され、相談にのってくれます。特に、特別支援学校は、専門的な知識や経験等から、地域のセンター的役割を果たしているので、「個別の教育支援計画」の作成についての相談にも応じてくれます。

連携は、何となく面倒に思いますが、的確な専門的な情報が入り、保育や指導への手がかりを得ることができ、子供のより健やかな成長への一助となるでしょう。

(元特別支援学校長)



IV 中学校・高等学校



5 学校生活チェックリスト(中学校・高等学校編)の活用方法と様式

対象は、気がかりに思っている生徒、本人自身に困った様子がみられる生徒です。担任及びその生徒と関わりのある教員が回答します。

<実施手順>

質問項目をチェック

・○、△、無記入の3段階で回答します。

特記事項を記入

・質問項目以外に気がかりな言動や行動がある場合に記入します。

○と△の数を記入

教育的対応を検討

・○や△が多く付いた領域(A～D)は「**支援が必要**」と捉えます。

本人に必要な支援を始めましょう

支援を始めるにあたっては、本人、保護者の理解を得ることが大切です。
※感覚の過敏性は個人差が大きいため、あせらず本人や保護者と相談して進めましょう。



チェックの数が少ない場合でも担任が気になるときや本人が困っていると思われる場合は教育的対応を検討しましょう。

次の場合も支援が必要と考えられます。

- 学校でほとんどしゃべらない
- 無気力又は意欲がないように見える
- ささいな注意でも被害的に捉える

など

これらは、二次的にみられる行動かもしれません。支援検討チェックリストの「IV二次的にみられる行動」をチェックしてみましょう。

支援を考えるときには

特別支援教育指導資料第102集

「特別支援教育学びQ&A(指導事例集)」(平成28年3月発行)が参考になります。

学び Q&A



富山県総合教育センターのHP から閲覧・ダウンロードできます。
<http://center.tym.ed.jp/>



さらに詳しい実態を知りたい場合、個別の教育支援計画等を作成したい場合は「**支援検討チェックリスト(中学校・高等学校編)**」を実施してみましょう。

※「学校生活チェックリスト」、「支援検討チェックリスト」の様式は、富山県総合教育センターのHPからダウンロードできます。

学校生活チェックリスト（中学校・高等学校編）

学年・組		氏名		記入者		記入日	
------	--	----	--	-----	--	-----	--

回答欄：よくある…○、ときどきある…△、ない…無記入

質問項目		回答欄	領域	
授業や行事	1	授業中退屈そうにしていたり、寝ていたりする。		A
	2	特定の教科だけ試験の点数が他の教科より明らかに低い。		A
	3	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。		A
	4	黒板の字を写すことに時間がかかる。		A
	5	学習で必要な物や提出書類、提出課題等忘れ物をする。		B
	6	着席していても、手足をそわそわ動かしたり、体を絶えず揺すったりする。		B
	7	急な時間割変更があると、嫌がったり対応できなかつたりする。		C
休み時間・部活動・登下校等	8	机の上や机の中、かばんの中が乱雑である。		B
	9	日直等係の仕事を最後までやり遂げられない。		B
	10	会話が成立しにくい。		C
	11	仲の良い友達がおらず、一人で行動している。		C
	12	感覚（視覚・聴覚・臭覚・触覚・味覚）が敏感あるいは鈍感である。*注1		C
	13	遅刻や早退、保健室の利用がある。		D
	14	学校や学級のルールを守らない。		D
	15	自信がもてずグループ活動で発言しない。		D
	16	自分のやりたいことがみつからない。*注2		D
特記事項	(例) 不器用である（走り方が不自然、はさみやマウスの使い方がぎこちないなど） 服装の乱れがある など			

	I 学習面	II 行動面	III 社会性	
	A 学習面	B 不注意、多動性・衝動性	C 人との関わり・こだわり・感覚の過敏性	D コミュニケーション
△の数	/4	/4	/4	/4
○の数	/4	/4	/4	/4

*注1（質問項目12）について

(例) 雑踏や人の多い場所を嫌がる、肌触りが悪い服を嫌がる、偏食があるなど

*注2（質問項目16）について

(例) 余暇の時間にしたいことがない、希望する進路先がない、やりたいことを聞いても「何でもいい」と答えるなど

・自分のやりたいことがあるということは、将来に向けよりよく生きていく上で欠かせないことです。得意・不得意、性格等自己理解を促し、自分に合った進路を選択できるように支援することが大切です。

例を参考に
支援をしてみましょう。



チェックが付いたら…

4 黒板の字を写すことに時間がかかる。

学びQ&A
P.45

- ・板書は簡条書きにしたり、キーワードを囲んだりして分かりやすくする。
- ・授業の途中で、板書を写す時間を設ける。
- ・ワークシートに書き込むようにして、書く負担を減らす。
- ・可能ならば、タブレット等で板書を写したものを渡す。

12 感覚（視覚・聴覚・臭覚・触覚・味覚）が敏感あるいは鈍感である。

学びQ&A
P.47

- ・本人に聞き、過敏さに配慮した環境を整える。
（カーテンによる光の遮断、座席、イヤーマフ、肌触りに配慮した服等）
- ・本人に聞き、納得できることから苦手なことに取り組めるようにする。
（服装の整え方、給食の量、集団参加の仕方等）

13 遅刻や早退、保健室の利用がある。（遅刻への対応について）

学びQ&A
P.50

- ・本人と相談しながら、登校前の時間の使い方について具体的な計画を立てる。
- ・必要な睡眠時間を確認し、早めに寝ると起きられるなど、行動と結果の関係性について、フローチャートにして具体的に示す。
- ・生活習慣を整える意識が希薄な生徒には、一日の生活を時系列で書いてみるなど、本人のできそうなところから取り組む。

15 自信がもてずグループ活動で発言しない。

学びQ&A
P.43

- ・何人が発言した後に、本人の順番が来るようにする。
- ・話合いの前に同じ意見でもいいことを伝えておく。
- ・生徒同士が、苦手なことがあっても互いのよさを発見できるように、普段から生徒のよいところを言葉で伝える。

16 自分のやりたいことがみつからない。

学びQ&A
P.54

- ・活動に意欲的に取り組んでいる姿勢をほめたり認めたりし、その活動が継続できるようサポートする。
- ・好きなこと、得意なことを聞いて、どんな職業や趣味が向いているかをフローチャートにして一緒に考える。
- ・将来についてやりたいことが思いつかない場合には、やりたくない仕事を聞く。分からないことや不安に感じていることが漠然としている場合には、具体的に例を挙げて聞く。

6 支援検討チェックリスト(中学校・高等学校編)の活用方法と記入例



生徒の実態を詳しく把握したい場合に活用します。

担任及びその生徒と関係の深い教員が 複数で協議しながら 回答、作成します。
作成に際しては、記入例 (P.33～) を参考にしてください。

<実施手順>

実態把握

質問項目をチェック

・○、△、無記入の3段階で回答します。

特別支援教育コーディネーターと

一緒に考えましょう。



「Ⅳ二次的にみられる行動」に一つでもチェックが付いたら早急に対応を考えましょう。

要因の確認と強みの発見

「考えられる要因」をチェック

・各項目や日頃の様子を関連付けて選びます。
※分からない場合、飛ばして進んでもよいです。

<<支援検討シートの記入の仕方>>

強みとして生かせそうな点

- ・Ⅰ～Ⅲの質問項目で、○が付かなかった領域や項目、日頃の様子から選んで記入する。
- ・() には、強みとして生かせそうな能力を記入する。

気がかりな点

- ・Ⅰ～Ⅲで、○が付いた項目や日頃の様子から選んで記入する。
- ・() には、考えられる要因を記入する。

その他

- ・本人の好きなことや特技、Ⅳでチェックが付いた項目や特記事項、障害名や検査結果等を記入する。

伸ばしたい力

- ・本人の強みや少し努力すれば達成できそうな点を考え記入する。

配慮すべきこと

- ・気がかりな点から配慮点を考え記入する。
※二次的にみられる行動への対応は必ず記入する。

整理

「支援検討シート」を記入

個別の教育支援計画や個別の指導計画に活用

【参考】

わかる！できる！つかえる！「個別の教育支援計画」作成・活用マニュアル

教員間や関係機関と連携しながら、指導・支援を始めましょう

分からないときは「学びQ&A」を参考にしたり、地域の特別支援学校や教育事務所、富山県総合教育センターに相談したりしましょう。

I 学 習 面

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質 問 項 目		回答欄
聞 く	① 聞き間違いがある。(「知った」を「行った」と聞き間違えるなど)	
	② 聞いた内容を覚えることが難しい。	
	③ 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。	
	④ 聞いたことの内容の理解が難しい。	
	⑤ 話合いが難しい。 (話合いの流れや前後の意見との関連付けが理解できず、ついていけないなど)	
話 す	① 適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話す、とても早口であるなど)	
	② 考えを話すとき、言葉をすぐに思い出せず、言葉につまる。	△
	③ 語彙が乏しく、表現の仕方が分からない。	
	④ 見たことや体験したことを順序立てて話すことが難しい。	
読 む	① 初めて出てきた語や、普段あまり使わない語等を読み間違える。	
	② 文中の語句や行を抜かしたり、繰り返し読んだりするなど、読んでいる場所が分からなくなる。	
	③ 音読に時間がかかる、またはたどたどしい。	
	④ ぱっと見て、思い込みで文を読んでしまう。(「いきました」を「いました」と読むなど)	
	⑤ 文章の内容の理解が難しい。	
書 く	① 読みにくい字を書く。(字の形や大きさが整わない まっすぐではないなど)	▽ 几帳面な文字で、教師の 発言までメモしている
	② 同じ読み方でも意味の異なる漢字を書く。(「黒板」を「国板」と書くなど)	
	③ 漢字の細かい部分や拗音、促音等を書き間違える。	新出単語について予習 している
	④ 黒板が写せない。時間がかかる。	
	⑤ 限られた量の作文や、決まったパターン of 文章しか書けない。	テスト勉強では教科書を 書き写して暗記している
計 算 す る	① 簡単な計算が暗算でできない。	
	② 計算にとっても時間がかかる。	
	③ いくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい。(四測混合の計算、方程式など)	
	④ 学年相応の文章題の式を立てることが難しい。	
推 論 す る	① 量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい。 (長さやかさの比較「15cmは150mm」ということなど)	
	② 見取り図や展開図の理解が難しい。	
	③ 事物の順序や因果関係を理解することが難しい。	
	④ 目的に沿って行動を計画したり、必要に応じて計画を修正したりすることが難しい。	
英 語	① 3 語文程度の簡単な英語を聞いて、理解することが難しい。	
	② まねて言うことはできるが、覚えていることが難しい。	
	③ 4 文字以上の単語を読むことができない。	
	④ 2～3 語文程度の簡単な文を読んで意味を理解することが難しい。	
	⑤ アルファベットが正確に書けない。(大文字と小文字、b と d の区別など)	

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。

【記入例②】 中学校1年生のケース

2) 前ページで○が付いた項目(気がかりな点)の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見>

「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

特別支援教育コーディネーターと一緒に考えられる範囲で付けましょう

- 聞く力（聞き分け、聞き取り、音の取捨選択等）
- 見る力（注視、追視等）
- 文字と音を一致させたり正しく並べたりする力
- 形や空間の広がりを理解する力（形の弁別、位置関係、空間認知、目と手の協応等）
- 身体の動き（粗大運動、微細運動、協調運動、力の加減、道具の使い方、滑舌等）
- 知っている言葉の数（語彙数）
- 言葉や文字等を記憶する力
- 言葉や文字等を思い出す力（想起）
- 単語を見て意味をイメージする力（抽象的な語、気持ちを表す語等）
- 文の意味を理解する力
- まとめる力（順序立て、因果関係、関連付け、要点の把握）
- 数を見て量や長さをイメージする力
- 数を頭の中で操作する力（合成分解）
- その他の力（Ⅱ行動面・Ⅲ社会性）との関連




話合いで消極的なのが気がかりだな

社会性と関連付けて、考えてみるといいわよ



3) 「Ⅴ 支援検討シート」に記載する内容を整理しましょう

「強みとして生かせそうな点」…○が付かなかった領域や質問項目、日頃の様子から選ぶ。
「✓」が付かなかった能力を関連付けるとなおよい。

「気がかりな点」…○が付いた領域や質問項目、要因を記入する。



英語では新出単語の意味が必ずノートに書いてあり、予習はいつも完璧です

社会でも教科書を写してテスト勉強をしているぞ



「書く」「読む」力を生かして学習しているのはすごいわ

「言葉や文字等を記憶する力」「知っている言葉の数が多い」ことが本人の強みね

書いて知識を増やせるといいわね



Ⅱ 行 動 面

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質 問 項 目		回答欄
不 注 意	① 学校の勉強で、細かいところまで注意を払わない、不注意な間違いをする。	日頃の様子 (メモ)
	② 課題に注意を集中し続けることが難しい。	居眠りをしない 教師の発言もメモしている
	③ 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える。	
	④ 他の活動や話題に注意がそれてしまい、課題を完了することが難しい。	
	⑤ 課題や活動を段取りよく行うことが難しい。	提出課題は期限を守る
	⑥ 課題や活動に必要な物を忘れやすい。	机の中はいつも整頓されている
	⑦ 気が散りやすい。	
多 動 性 ・ 衝 動 性	① 手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする。	
	② 授業中や座っているべきときに席を離れてしまう。	
	③ 質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう。	
	④ 順番を待つことができない。	
	⑤ 他人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする。	

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。

2) 上記で○が付いた項目 (気がかりな点) の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見>
 「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

<input type="checkbox"/> 必要な情報を選択し注目する力 <input type="checkbox"/> 持続力 <input type="checkbox"/> ルールや順番の遵守 <input type="checkbox"/> 多動性 <input checked="" type="checkbox"/> その他の力 (Ⅰ学習面・Ⅲ社会性) との関連	<input type="checkbox"/> 集中力・集中の度合い <input type="checkbox"/> 記憶力 <input type="checkbox"/> 物の整理・整頓 <input type="checkbox"/> 衝動性
---	---

※学力が高すぎるために不注意や無気力にみえることがあります



整理整頓や提出期限の厳守はこだわりかしら？

3) 「Ⅴ 支援検討シート」に記載する内容を整理しましょう

「強みとして生かせそうな点」…○が付かなかった領域や質問項目、日頃の様子から選ぶ。

「✓」が付かなかった能力を関連付けるとなおよい。

「気がかりな点」…○が付いた領域や質問項目、要因を記入する。



授業中の「集中力」は素晴らしい！

ルールを守ろうとする意識が高いことは本人の強みだ

Ⅲ 社会性

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質問項目		回答欄
人との かかわり	① 共感性が乏しい。あいづちを打つ、微笑むなど共感する言動が少ない。	△
	② 人の気持ちや意図が分からない。	○頃の様子(メモ)
	③ 周りの人が困惑するようなことを、配慮しないで言う。	
	④ 友達と仲良くしたいという気持ちはあるが、友達との関わり方が分からず、関係がうまく築けない。	○ 女友達の会話に入れないことを気にしている
	⑤ 友達のそばにいるが、一人で過ごす。	△ 特定のグループには所属していない
	⑥ 球技やゲームをするとき、仲間と協力することが難しい。	
コミュニケーション	① 相手の言うことを言葉どおりに受け止めてしまうなど、前後の状況から意味を想像することが難しい。	
	② 言葉のキャッチボールができない。	○ 質問には答えるが、自分から質問あることがなく会話が籠がない
	③ 会話の仕方が形式的で、抑揚なく話したり、独特な声で話したりする。	
意志決定	① 自分の努力や能力よりも、他(人、環境等)の影響で進路や仕事の方向性が決まることが多い。	○ 期待に応えようとして努力ある
	② 進路や仕事の方向性を決めるために必要な情報を収集しようとしめない。	
興味関心	① 特定分野での知識を蓄えているが、丸暗記であり意味をしっかりと理解していない。	
	② とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある。	
	③ 特定の音や触感に対する拒否反応がある。	△ 予期せぬ音に耳をふさぐ
	④ 自分なりの独特な日課や手順がある。	
将来設計	① 自分の将来について、やってみたいことが分からない、もしくは考えられない。	△
	② 何かを始めるときに、計画を立てて行うことが難しい。	
	③ 見通しをもって予定に沿った準備をすることが難しい。	
	④ 自分の将来について、目的に合わせて相談相手を決め、相談することができない。	△
自己理解・自己管理	① 自分の得意、不得意を自覚していない。	△
	② 自分の果たすべき役割に責任をもって取り組めない。	
	③ 自分のやりたいことがみつからない。	○
	④ 自ら始めたことでも、うまくいかないとやめてしまう。	
	⑤ 不得意分野の対処法を知らない。	○ 友達に頼まれたことを断れず放課後にしていることがある

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。

2) 上記で○が付いた項目(気がかりな点)の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見> 「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

質問を返すスキルが身についていないのね。

相手の心情の理解・気持ちの共有

✓ コミュニケーション(関わり方)スキルの獲得

ルール(順番も含む)の理解

計画性(将来に向けて)

✓ 感覚の過敏さ・鈍感さ

情緒面(不安が大きい、意欲がないなど)

タイミングが分からないから会話に入れたい

✓ 状況の理解

興味の偏り

こだわり

想像力・見通し

✓ 自己理解

努力する姿勢は強みだ！
自分のやりたいことに向かって頑張れるといいな。

本人のやりたいことはなんだろう？

Ⅳ 二次的にみられる行動

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質問項目	口頭の様子(メモ)	回答欄
① 不登校、もしくは不登校傾向、保健室登校等の状態が続いている。	最近遅刻が増えた	△
② 医学的な原因が見つからないが、腹痛や頭痛を訴える。		△
③ 無気力又は意欲がない様子がみられる。 (授業中突っ伏して眠る 宿題を提出しないなど)		
④ ささいなことですぐにかんしゃくをおこす。		
⑤ ちょっと注意されたことをひどく怒られたように被害的に捉える。		
⑥ 「どうせできない」など自己否定的な言動がある。		
⑦ 極端に手洗いを続けたり、汚れを嫌ったりする。		
⑧ 先生や友達に対して、極端な暴言や暴力をふるう。		
⑨ 他人のものを盗ったり、隠したりする。		
特記事項 (例)虚言が多い。死にたいと言う。苦手なことに取り組もうとしない。ほめられても無反応である。摂食障害等 表情が暗い。 自分と他人の感覚の違いが気になり始めている。		

自分のできないことにばかり
目がむいているのは気になるな



2) 上記で○が付いた項目の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認>

<input type="checkbox"/>	成功体験の不足・失敗体験 ◆	そうね！ できない自分を受け入れられず 自己肯定感が低下しているかも
<input type="checkbox"/>	他者への恐怖感 ◆	
<input checked="" type="checkbox"/>	自己有用感・自己肯定感 ◆	期待に応えようとするかも 関係しているかもしれない 本人は気付いているのかな？
<input checked="" type="checkbox"/>	家族関係・生活環境	
<input checked="" type="checkbox"/>	教師や友人との関係・学習環境	今こそ自己理解を深める いい機会だわ (配慮点)
<input type="checkbox"/>	トラウマな出来事	

定期的な話を聞く機会があるといいわね (配慮点)

養護教諭にも協力してもらいましょう

3) 本人の心情や取り巻く環境に関して、早急に教育的対応を考えましょう。

※一つでもチェックが付く、もしくは特記事項に記載がある場合は、必ず対応を考えます。

- ・校内や保護者、関係機関と連携して対応を考えます。
- ・◆の要因については、Ⅰ学習面・Ⅱ行動面・Ⅲ社会性の結果を踏まえて対応を考えていく必要があります。

V 支援検討シート

学年・組	1年5組	氏名	黒部 雪	記入者	魚津 海人	作成日	〇年〇月〇日
------	------	----	------	-----	-------	-----	--------

本人に関する情報		※質問項目や日頃の様子等を転記	
	強みとして生かせそうな点	気がかりな点	
I 学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・几帳面な文字で教師の発言までノートをとっている。 ・新出単語について予習した内容がノートに書いてある。(語彙数) ・テスト勉強では教科書をノートに写し覚えている。(言葉や文字等を記憶する力) <p>()は「強みとして生かせそうな能力」です</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは自分から意見を言うことは少ないが、質問されると答える。(社会性との関連) <p>()は「考えられる要因」です</p>	
II 行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、教師の発言までもメモを取っている。(集中力) ・提出課題は必ず期限を守る。(ルールへの遵守) ・机の中の物はいつも整頓されている。(こだわり?) 	<p>取り立てて書くことがなければ空欄でも構いません</p> 	
III 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・両親や担任の期待に応えようと努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わり方が分からず、関係がうまく築けない。(状況の理解) ・質問には答えるが自分から相手に質問することがなく会話が続かない。(コミュニケーションスキル) ・本人のやりたいことが見つからない(自己理解) 	
その他	<p>【好きなこと・特技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジグソーパズル、絵を描くことが好き。 ・ピアノが得意。 	<p>【二次的にみられる行動】</p> <p>※教育的対応を「配慮すべきこと」に必ず記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近遅刻が増えた。 ・自分と他人の感覚の違いが気になり始めている。(自己肯定感) 	
	<p>【診断名・検査結果等】</p>		



伸ばしたい力		※本人に関する情報から少し努力すれば達成できそうな点を記入	
<ul style="list-style-type: none"> ・書いて知識を増やしたり、思考を深めたりする。(言葉や文字等を記憶する力、語彙数) ・要点が分かるノートの取り方。 ・相手からの質問に答えた後、同様の質問を相手に返すスキル。 ・やりたいことや目標を自分で考えたり決めたりする。(自己理解) ・人によって感覚の違いがあることが分かる。 		<p>強みとして生かせそうな点からさらに伸ばしたい点を考えてよいでしょう</p>	

願い (現在の希望・将来の夢)	
本人	<ul style="list-style-type: none"> ・なりたい職業はないが、進学校に進みたい。 ・両親や先生の期待に応えたい。 ・友達と話ができるようになりたい。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・進学校に合格し、将来は教員になってほしい。 ・休まずに学校に行ってほしい。

配慮すべきこと
<p>※相談体制の確立 [養護教諭やスクールカウンセラーとの定期的な相談、自己理解を促す関わり]</p>

【参考】

支援の検討・実践

○「伸ばしたい力」については、「強みとして生かせそうな点」を取り入れた支援を考えましょう。



どのように取り入れればよいのかな？

全ての力について一度に考えようとせず、優先順位を付けて進めるといいわ



誰がどんな場面で支援をするか、具体的に考えるといいわね

黒部雪さん（記入例②）の場合

「やりたいことや目標を自分で考えたり決めたりする」ためには…



「言葉や文字等を記憶する力」が強みだわ



書き表すことで、考えをまとめられるといいね。

誰が	どんな場面	どんな支援
担任	総合的な学習の時間（14歳の挑戦の調べ学習）	<ul style="list-style-type: none"> 本人が力を発揮できそうな作業や場면을職種毎に具体的に伝える。 希望の職種や選んだ理由を書き込むワークシートを準備する。 友達の考え方を知ることができるようワークシートを掲示する。
	保護者懇談会	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも本人の希望を聞く機会をもつよう保護者に依頼する。
美術担当者・美術部顧問	美術の授業 部活動	<ul style="list-style-type: none"> 題材を選ぶ機会を設ける。自分から言えない場合は、選択肢を提示する。 題材を選んだ理由を尋ね、考え方に共感する。 作品展示の際には、名札に、作品名と題材を選んだ理由を簡単に書き込めるようにしておく。作品鑑賞の時間を設ける。

「学びQ & A」を参考にしてください（下記参照）



個別の教育支援計画の作成

○3年後を想像し、「伸ばしたい力」から目標を考えましょう。



どんな目標を立てるといいのかな？

例 自分の得意、不得意を知り、自分で目標を決めたり他者との違いを受け入れたりできるようにする。
人に話しかけるスキルを身に付け、身近な人と会話を続けることができるようにする。

特別支援教育指導資料第102集
「特別支援教育学びQ&A（指導事例集）」
（富山県教育委員会 平成28年3月発行）

特別支援教育指導資料第104集
わかる！できる！つかえる！
「個別の教育支援計画」作成・活用マニュアル
（富山県教育委員会 平成31年3月発行）



○ 二次的にみられる行動は、大人に発している子供のSOS サイン ○

子供のもつ特徴

感覚、認知の仕方、記憶力、情報処理力
適応力、注意保持力、把握する力、
待てる力、柔軟性等

本人を取り巻く環境

家庭（親、兄弟、養育者）、親戚（祖父母
等）、近所、友人、学校、風土、文化、
言語等

子供は、上記に示した自身の特徴と周囲の環境とが影響しあい、相互作用が順調ならば、健やかに成長します。しかし、子供の特徴が強いため環境に合わない場合、周囲の環境が子供にとって厳しい場合は共に、相互作用がうまくいかず、以下の事が起こりえます。

【本人の感情】不安（パニックも）、機嫌が悪い、苛立つ、怒りやすくなる。

【本人の体験】不快な出来事に遭う、成功が少ない、失敗を繰り返す。

【周囲から本人への反応】温かく接せられない、褒められない、叱られる。

上記のように不快な経験が多いため、心理的な影響（自信や自己肯定感がもてない。自分や周囲、将来への諦め。意欲の低下。周囲に対する被害的・否定的感情から、良好な人間関係を保てないなど）を受けてしまいます。更に、周囲からの助けが差し伸べられないと、不安や恐怖、情緒不安定、うつ状態、感情調節が困難、といった精神状態へと発展していくものと考えられます。

このような様相を示す子供へ対応する際のポイントは、行動や言動はワガママや性格からではなく、何らかの訳があるのではないか？ と思い、子供の立場（特徴や環境）に立って理解し、子供が健やかに育ってほしいと願って対応する 一貫した 姿勢です。

心が傷ついてきた人は他者に対して敏感な傾向があり、子供は弱く経験がない分、更に敏感となります。敏感さ故に、心を開かないことも少なくありませんが、「この人は、自分の話を聴いてくれる」と思うと、その子なりのペースや方法でサインを出してくるので、慌てず急がず、子供に合わせて接することが大切です。なお、担任の先生は、学級経営上、“問題行動”の影響を受けた他の子供との関係があるため、“問題行動”に至る子供については指導という立場にならざるをえないこともあるでしょう。担任の先生が本人の立場に立って話を聴くことが難しい場合には、担任ではない先生（学年主任や特別支援教育コーディネーター等）が役割を担うことをお勧めします。

(児童精神科医)



I 学 習 面

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質 問 項 目		回答欄
聞 く	① 聞き間違いがある。(「知った」を「行った」と聞き間違えるなど)	
	② 聞いた内容を覚えることが難しい。 教師に聞いた課題の提出日も忘れる	○
	③ 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。 聴力検査では問題なし	○
	④ 聞いたことの内容の理解が難しい。 ①項の様子をメモしてもよい	
	⑤ 話合いが難しい。 (話合いの流れや前後の意見との関連付けが理解できず、ついていけないなど)	
話 す	① 適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話す、とても早口であるなど)	
	② 考えを話すとき、言葉をすぐに思い出せず、言葉につまる。	
	③ 語彙が乏しく、表現の仕方が分からない。	
	④ 見たことや体験したことを順序立てて話すことが難しい。 数学が苦手な生徒から質問されて、解き方も教えている	
読 む	① 初めて出てきた語や、普段あまり使わない語等を読み間違える。	
	② 文中の語句や行を抜かしたり、繰り返し読んだりするなど、読んでいる場所が分からなくなる。	
	③ 音読に時間がかかる、またはたどたどしい。	
	④ ぱっと見て、思い込みで文を読んでしまう。(「いきました」を「いました」と読むなど)	
	⑤ 文章の内容の理解が難しい。 好きな分野であれば、専門的な内容も理解し、覚えている	
書 く	① 読みにくい字を書く。(字の形や大きさが整わない、まっすぐではないなど)	
	② 同じ読み方でも意味の異なる漢字を書く。(「黒板」を「国板」と書くなど)	
	③ 漢字の細かい部分や拗音、促音等を書き間違える。	
	④ 黒板が写せない。時間がかかる。	
	⑤ 限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書けない。	
計 算 す る	① 簡単な計算が暗算でできない。	
	② 計算にとっても時間がかかる。 計算問題を解くのが速い	
	③ いくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい。(四測混合の計算 方程式など)	
	④ 学年相応の文章題の式を立てることが難しい。	
推 論 す る	① 量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい。 (長さやかさの比較「15cmは150mm」ということなど)	
	② 見取り図や展開図の理解が難しい。	
	③ 事物の順序や因果関係を理解することが難しい。 新しいパターンの応用問題を解くことが苦手な傾向にある	
	④ 目的に沿って行動を計画したり、必要に応じて計画を修正したりすることが難しい。	△
英 語	① 3 語文程度の簡単な英語を聞いて、理解することが難しい。	
	② まねて言うことはできるが、覚えていることが難しい。	
	③ 4 文字以上の単語を読むことができない。	
	④ 2～3 語文程度の簡単な文を読んで意味を理解することが難しい。	
	⑤ アルファベットが正確に書けない。(大文字と小文字、bとdの区別など)	

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。

【記入例③】 高等学校 1 年生のケース

2) 前ページで○が付いた項目(気がかりな点)の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見>

「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

特別支援教育コーディネーターと一緒に考えられる範囲で付けましょう

- 聞く力 (聞き分け、聞き取り、音の取捨選択等)
- 見る力 (注視、追視等)
- 文字と音を一致させたり正しく並べたりする力
- 形や空間の広がりを理解する力 (形の弁別、位置関係、空間認知、目と手の協応等)
- 身体の動き (粗大運動、微細運動、協調運動、力の加減、道具の使い方、滑舌等)
- 知っている言葉の数 (語彙数)
- 言葉や文字等を記憶する力
- 言葉や文字等を思い出す力 (想起)
- 単語を見て意味をイメージする力 (抽象的な語、気持ちを表す語等)
- 文の意味を理解する力
- まとめる力 (順序立て、因果関係、関連付け、要点の把握)
- 数を見て量や長さをイメージする力
- 数を頭の中で操作する力 (合成分解)
- その他の力 (Ⅱ行動面・Ⅲ社会性) との関連



HR では話が聞こえていないみたい、なぜかな？課題の提出期限を覚えていなくて困るんだけど…

「音の取捨選択」が苦手が必要なことを聞き逃すのかも。聞いたことを忘れるのは「言葉を記憶する力」が要因ね

「不注意」との関連も考えられるわ



3) 「Ⅴ 支援検討シート」に記載する内容を整理しましょう

「強みとして生かせそうな点」…○が付かなかった領域や質問項目、日頃の様子から選ぶ。

「✓」が付かなかった能力を関連付けるとなおい。

「気がかりな点」…○が付いた領域や質問項目、要因を記入する。



天文学に関する知識は教員でもかなわない
「文字を記憶する力」は強みだね

友達に「話す」ことで知識が定着しているようね 強みとして生かせそう



数学では一度覚えた法則を忘れないところが素晴らしい！

提出期限等を知らせるときは見て確認できるよう板書しましょう (配慮点)



Ⅱ 行 動 面

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質 問 項 目		日頃の様子 (メモ)	回答欄
不 注 意	① 学校の勉強で、細かいところまで注意を払わない、不注意な間違いをする。		
	② 課題に注意を集中し続けることが難しい。	数学は長時間集中して取り組む	△
	③ 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える。		△
	④ 他の活動や話題に注意がそれてしまい、課題を完了することが難しい。		○
	⑤ 課題や活動を段取りよく行うことが難しい。	テストは最後まで解答できないことが多い	○
	⑥ 課題や活動に必要な物を忘れやすい。	机の中に提出物が押し込まれている	○
	⑦ 気が散りやすい。		△
多 動 性 ・ 衝 動 性	① 手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする。		
	② 授業中や座っているべきときに席を離れてしまう。		
	③ 質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう。		
	④ 順番を待つことができない。	テストでは分からない問題に ず〜っと向き合っていて 時間がなくなるんです	
	⑤ 他人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする。		

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。



2) 上記で○が付いた項目 (気がかりな点) の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見>
 「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

<input type="checkbox"/> 必要な情報を選択し注目する力 <input checked="" type="checkbox"/> 持続力 <input checked="" type="checkbox"/> ルールや順番の遵守 <input type="checkbox"/> 多動性 <input checked="" type="checkbox"/> その他の力 (Ⅰ学習面・Ⅲ社会性) との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 集中力・集中の度合い <input checked="" type="checkbox"/> 記憶力 <input checked="" type="checkbox"/> 物の整理・整頓 <input type="checkbox"/> 衝動性
---	--

※学力が高すぎるために不注意や無気力にみえることがあります

見通しをもつことが苦手で
 段取りを付ける経験も
 少ないんじゃないかしら

数学以外の授業では
 注意散漫
 「集中の度合い」が極端ね

3) 「Ⅴ 支援検討シート」に記載する内容を整理しましょう

「強みとして生かせそうな点」…○が付かなかった領域や質問項目、日頃の様子から選ぶ。

「✓」が付かなかった能力を関連付けるとなおよい。

「気がかりな点」…○が付いた領域や質問項目、要因を記入する。



数学では「集中力」を発揮している。「持続力」も得意分野では強みになりそう

分かる問題から解くように伝えよう (配慮点) そうすればもっと点数が上がるはず



Ⅲ 社会性

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質問項目		回答欄
人との かかわり	① 共感性が乏しい。あいづちを打つ、微笑むなど共感する言動が少ない。	
	② 人の気持ちや意図が分からない。	○
	③ 周りの人が困惑するようなことを、配慮しないで言うてしまう。	
	④ 友達と仲良くしたいという気持ちはあるが、友達との関わり方が分からず、関係がうまく築けない。	
	⑤ 友達のそばにいても、一人で過ごすことが多い。	○
	⑥ 球技やゲームをするとき、仲間と協力することが難しい。	△
コミュニケーション	① 相手の言うことを言葉どおりに受け止めてしまうなど、前後の状況から意味を想像することが難しい。	△
	② 言葉のキャッチボールができない。 一方的だが、天体に関する話を友達によくしている	△
	③ 会話の仕方が形式的で、抑揚なく話したり、独特な声で話したりする。	
意志決定	① 自分の努力や能力よりも、他（人、環境等）の影響で進路や仕事の方向性が決まることが多い。 天文学の研究で有名な大学をインターネットなどで調べている	
	② 進路や仕事の方向性を決めるために必要な情報を収集しようとしめない。	
興味関心	① 特定分野での知識を蓄えているが、丸暗記であり意味をしっかりと理解していない。	
	② とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある。	○
	③ 特定の音や触感に対する拒否反応がある。	
	④ 自分なりの独特な日課や手順がある。 口頭の様子(メモ)	
将来設計	① 自分の将来について、やってみたいことが分からない、もしくは考えられない。	
	② 何かを始めるときに、計画を立てて行うことが難しい。 テスト勉強が最後までできない	○
	③ 見通しをもって予定に沿った準備をすることが難しい。	○
	④ 自分の将来について、目的に合わせて相談相手を決め、相談することができない。	
自己理解・自己管理	① 自分の得意、不得意を自覚していない。	△
	② 自分の果たすべき役割に責任をもって取り組めない。 課題も提出していない	○
	③ 自分のやりたいことがみつからない。 放課後や休日に天文台に通っている	
	④ 自ら始めたことでも、うまくいかないとやめてしまう。	
	⑤ 不得意分野の対処法を知らない。 行かないことがあってもそのまましている	○

※ 無記入の項目は、「強みとして生かせそうな点」、○が付いた項目は「気がかりな点」として捉えます。

2) 上記で○が付いた項目（気がかりな点）の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認と強みの発見> 「✓」が付かない項目は、「強みとして生かせそうな能力」と考えます。

人との付き合い方が一方的に感じるな

「関わり方のスキル」が身に付いていないため

相手が困っていることや自分が困っている状況に気付いているかしら？

- 相手の心情の理解・気持ちの共有
- コミュニケーション（関わり方）スキルの獲得
- ルール（順番も含む）の理解
- 計画性（将来に向けて）
- 感覚の過敏さ・鈍感さ
- 情緒面（不安が大きい、意欲がないなど）

- 状況の理解
- 興味の偏り
- こだわり
- 想像力・見通し
- 自己理解

学習計画を立てる必要性を
進路と関連付けて伝えましょう

将来への目標があるのは強みですね

Ⅳ 二次的にみられる行動

1) 当てはまる項目をチェックしましょう。 当てはまる…○、多少当てはまる…△、当てはまらない…無記入

質問項目	回答欄
① 不登校、もしくは不登校傾向、保健室登校等の状態が続いている。	
② 医学的な原因が見つからないが、腹痛や頭痛を訴える。	
③ 無気力又は意欲がない様子がみられる。 (授業中突っ伏して眠る 宿題を提出しないなど)	△
④ ささいなことですぐにかんしゃくをおこす。	
⑤ ちょっと注意されたことをひどく怒られたように被害的に捉える。	
⑥ 「どうせできない」など自己否定的な言動がある。	
⑦ 極端に手洗いを続けたり、汚れを嫌ったりする。	
⑧ 先生や友達に対して、極端な暴言や暴力をふるう。	
⑨ 他人のものを盗ったり、隠したりする。	
特記事項 (例) 虚言が多い。死にたいと言う。苦手なことに取り組もうとしない。ほめられても無反応である。摂食障害等 いつも、始業時間きいきりに登校してくる。天体観測をされていて寝不足だと話している。	

2) 上記で○が付いた項目の考えられる要因を以下から探し、「✓」を付けましょう。

<要因の確認>

<input checked="" type="checkbox"/>	成功体験の不足・失敗体験 ◆		課題を提出せずによく注意されているなあ
<input type="checkbox"/>	他者への恐怖感 ◆		注意されてばかりいるから意欲がわかないのかも
<input type="checkbox"/>	自己有用感・自己肯定感 ◆		なるほど！注意するより学習計画の助言を心掛けます (配慮点)
<input checked="" type="checkbox"/>	家族関係・生活環境		困っているときに助けを求めてくれるとアドバイスできるんだが
<input type="checkbox"/>	教師や友人との関係・学習環境		
<input type="checkbox"/>	トラウマな出来事		助けを求めることや援助を受けてやり遂げることも社会生活では必要な力よね

3) 本人の心情や取り巻く環境に関して、早急に教育的対応を考えましょう。

※一つでもチェックが付く、もしくは特記事項に記載がある場合は、必ず対応を考えます。

- ・校内や保護者、関係機関と連携して対応を考えます。
- ・◆の要因については、Ⅰ学習面・Ⅱ行動面・Ⅲ社会性の結果を踏まえて対応を考えていく必要があります。

V 支援検討シート

学年・組	1 年 A 組	氏名	五箇山 剣	記入者	利賀 梅子	作成日	○年○月○日
------	---------	----	-------	-----	-------	-----	--------

本人に関する情報		※質問項目や日頃の様子等を転記	
	強みとして生かせそうな点	気がかりな点	
I 学習面	<ul style="list-style-type: none"> 好きな分野の本であれば、専門的な内容も理解し、覚えている。(文字を記憶する力) 計算問題を解くのが速い。(数の操作、ルールの理解) 数学の苦手な生徒に解き方を教えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師に聞いた課題の提出日を忘れる。(聞く力、言葉を記憶する力) 	 <p>取り立てて書くことがなければ空欄でも構いません</p>
II 行動面	<ul style="list-style-type: none"> 数学の課題には長時間集中して取り組む。(集中力の度合い、持続力) <p>() は「強みとして生かせそうな能力」です</p>	<ul style="list-style-type: none"> テストは最後まで解答できないことが多い。(持続力、ルールの理解、見通し) 課題や活動に必要な物を忘れやすい。(物の整理・整頓、記憶力) <p>() は「考えられる要因」です</p>	
III 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意思で進路を決めている。 天文学で有名な大学の情報をインターネット等で調べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の気持ちや意図が分からない。 前後の状況から意味を想像することが難しい。 何かを始めるときに計画を立てて行うことが難しい。(計画性、想像力、見通し、自己理解) 不得意分野の対処法を知らない。(自己理解) 	
その他	<p>【好きなこと・特技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書、数学、天体観測が好き。 ギリシャ神話、星座に関する知識が豊富。 	<p>【二次的にみられる行動】</p> <p>※教育的対応を「配慮すべきこと」に必ず記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲がない様子がみられる。 課題を提出しない。 	
	<p>【診断名・検査結果等】</p> <p>自閉症スペクトラム疑い</p> <p>WISC-IV (○年○月:A病院) FSIQ102 (VIC:103, PRI:106, WMI:82, PSI:110)</p>		



伸ばしたい力		※本人に関する情報から少し努力すれば達成できそうな点を記入	
	<ul style="list-style-type: none"> 問題の解き方や調べたことを相手に分かりやすく伝える。(文字を記憶する力) 援助を受けながら、課題や活動に必要な物の整頓や管理をする。 進路に必要な技能や態度を理解し、身に付ける。 援助を受けながら、学習の計画を立てる、計画に沿って実行する。 困っていることに気付き、周りの人に対処法を尋ねる。(自己理解) 		<p>強みとして生かせそうな点からさらに伸ばしたい点を考えるとよいでしょう</p>

願い (現在の希望・将来の夢)	
本人	<ul style="list-style-type: none"> 天文学者になりたい。 東京の大学に進学したい。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 大学に進学して社会自立してほしい。 一人で自分のことができるようになってほしい。

配慮すべきこと
<ul style="list-style-type: none"> 聞くことに関する配慮 [視覚情報の活用] ※相談体制の確立 [定期的な個別懇談] ※問題行動に対する働き掛け [解決策の提示 (提出課題の範囲や期限の板書、学習計画の助言等)、大声で叱ることを控える]

【参考】

支援の検討・実践

○「伸ばしたい力」については、「強みとして生かせそうな点」を取り入れた支援を考えましょう。



どのように取り入れればよいのかな？

全ての力について一度に考えようとせず、優先順位を付けて進めるといいわ



誰がどんな場面で支援をするか、具体的に考えるといいわね

五箇山剣さん（記入例③）の場合

「進路に必要な技能や態度を理解し身に付ける」ためには…



「文字を記憶する」力が強み・視覚的に示すことが有効そう



なりたい職種と結び付けて学ぶと意欲や集中力が高まるかも

誰が	どんな場面	どんな支援
担任	総合的な学習の時間（進路学習）	<ul style="list-style-type: none"> 自分史や将来のライフプランを書き込めるワークシートを用いて、自分の得意・不得意や卒業後の生活を考える機会をもつ。 担任の進路選択や大学生活等の経験を具体的に紹介する。 大学生活や社会生活に必要な技能や態度について、卒業生や上級学校講師、社会人等が話した内容を簡単にまとめたプリントや使用された資料のコピーを渡す。
担任・学年主任・進路指導担当者	個別面談（放課後等）	<ul style="list-style-type: none"> 大学生活（授業や試験、レポートに関すること、食事や通学の仕方等）を具体的に説明し、本人と一緒に今後身に付けるべきことを整理してキーワードで示す。 振り返りの時期を決め、定期的にどこまで身に付いたか確認する。

「学びQ & A」を参考にしてください（下記参照）



個別の教育支援計画の作成

○3年後を想像し、「伸ばしたい力」から目標を考えましょう。



どんな目標を立てるといいのかな？

例 学習面や生活面における計画を立てたり、計画を遂行したりすることができるようにする。
困ったことや分からないことを自分から身近な人に相談できるようにする。

特別支援教育指導資料第102集

「特別支援教育学びQ&A（指導事例集）」

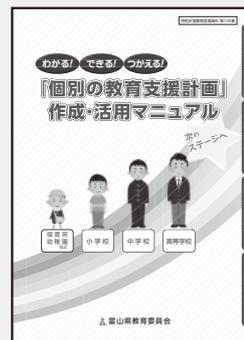
（富山県教育委員会 平成28年3月発行）

特別支援教育指導資料第104集

わかる！できる！つかえる！

「個別の教育支援計画」作成・活用マニュアル

（富山県教育委員会 平成31年3月発行）



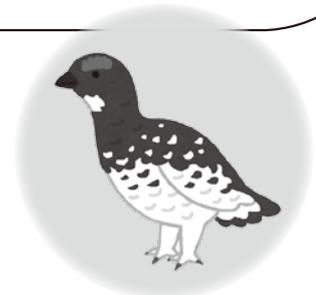
○ 自己理解・自尊感情について ○

「自己理解：自分がどのような人間であるのかを理解すること」と「自尊感情：自分に対する肯定的感情」には深いつながりがあります。

幼少期、私たちは自分を客観的に捉えることができません。また、発達障害があるために、客観的に捉えることが苦手な子供もいます。そのような子供たちの自己理解をかたちづくるのは「他者からの評価」です。褒めているはずなのに自尊感情が低いと感じたら、子供が他者の言動を「どのように受け止めているか」を今一度点検してください。表情の変化や微妙なニュアンスをうまくキャッチできず、言われただけでは印象に残らない子供には、具体的に褒め、見て分かるようにし、褒めたことが伝わったかどうかを確認することが必要です。さらに、子供が達成感を味わえているかにも注目してください。「なんとかやれる具体的な方法（対策）」に子供自身が取り組み、「なんとかやり遂げた」体験ができると、自尊感情は、ぐっと高まります。そして、この自尊感情こそが自分を伸ばし周囲と折り合うための様々なチャレンジを後押しします。

小学校高学年頃から、「どうして自分はできないのだろう」、「自分は人とどこか違うのではないか」と戸惑ったり、漠然とした不安を抱えたりする子供が増えてきます。この時期、温かく肯定的な雰囲気の中で大人がしっかり寄り添いながら、自己理解を促し対策を示すことは子供に安心を与えます。ポイントは、自尊感情に配慮し、子供の強みをしっかり認めた上で、弱み（苦手さ）への対策を併せて話すことです。「僕はなぜ教室を抜け出したのか」、その行動の意味や考え方の癖を子供と共に振り返り、「先生がなかなか当ててくれなくてそわそわし」、「僕のアイデアを他の子に言われて悔しく腹が立った」ことが次第に分かってきたところで、「ひらめきがあり、思いついたらすぐに行動できる強みがある反面、待つことや感情の調整は苦手な僕が（自己理解）、授業に落ち着いて参加するにはどうしたらよいか（対策）」を考えます。「教室を抜け出したのは、怒りが爆発するのを避けるための対策のひとつ」と子供を肯定した上で、教室内で取り組める対策も組み合わせようというアイデアを出し合うことができます。ふだん掃除に取り組まない子供が手順表を見ることでスムーズに取り組んだときには、「よくできた」と褒めるだけでなく、「書いて示してもらえると分かりやすく（弱みへの対策を取れば）、役割や手順が分かると真面目に取り組める（強みを活かせる）」と声をかけ、子供自ら取り組む際の知恵と意欲に繋げることができるでしょう。

自己理解も自尊感情も、「自分らしさを受け入れる」という点で共通しています。自分を受け入れるには、他者から受け入れられる経験が必要です。いいときも悪いときも変わらずに応援してくれる大人の存在が大きな支えとなることは言うまでもありません。（臨床心理士）



新しい時代の特別支援教育に向けて ～あとがきにかえて～

「子供のために 先生が気づいて動けるチェックリスト」(以下、チェックリストと表記)をここに刊行できたことは大きな喜びです。

平成28年4月1日より『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(通称:障害者差別解消法)』が施行され、障害のある子供に対する合理的配慮をどのように実施するかが教育現場でも大きな課題となっていました。障害者差別解消法第7条には、「行政機関等は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならない。」と記されています。学校や保育所ではこの条文を、“障害のある子供たちが教育を受ける権利を享受できるように合理的配慮をしなければならない”と読み取ることができます。しかし発達障害のある子供などはその実態が一人一人異なります。このチェックリストは子供の実態を的確に把握するために作られました。

富山県では、平成30年度にチェックリストの開発・刊行が事業化され、「とやまの特別支援教育強化充実事業」専門家チームのメンバーが中心となり、内容について検討を重ねてきました。さらに開発の過程では、専門家チーム以外の医療・児童福祉関係者や幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の現場の意見も取り入れながら内容を精査しました。

こうして出来上がったチェックリストの特徴は、年長児編、就学時健康診断編、小学校編、中学校・高等学校編の4種類を同時に開発し、連続性をもたせた点にあります。もちろん、実態を把握しただけでは教育を受ける権利が保証されないので、「合理的配慮」の実施が必要になります。小学校編と中学校・高等学校編では、子供たちのつまずきをスクリーニングするための簡易チェックリスト(学校生活チェックリスト)と、より丁寧に実態を把握して支援の計画を立案するための支援検討チェックリストの2種類を開発しました。

学校や保育の現場では、このチェックリストを活用して幼児児童生徒の実態を把握すると共に、「特別支援教育学びQ&A(平成28年3月刊)」を参考により良い支援を実現してほしいと思います。平成時代の最後に、このようなチェックリストを完成させることができたことを大変うれしく思います。新しくやって来る次の時代は、障害のある子供たちが青年期・成人期に至るまで切れ目のない支援を十分に受け、生き生きと社会参加できる時代であってほしいと強く願っています。

平成最後の春に

とやまの特別支援教育強化充実事業 専門家チーム代表 小林 真
(富山大学人間発達科学部教授)

参考文献

- 「一般発達評価票」筑波大学国際発達ケアエンパワメント科学研究室
- 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」国立教育政策研究所 2002
- 「就学時の健康診断マニュアル 平成29年度改訂」公益財団法人日本学校保健会 2018
- 「就労支援のための訓練生用チェックリスト」
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター研究部門 2009
- 「田中ビネー知能検査V」田研出版 2005
- 「チェックリスト特別支援教育すぐに見える！プリント教材+English」特別支援教育デザイン研究会
- 「特殊教育 指導資料第93集 学校全体で取り組む特別支援教育（小・中学校編）—通常の学級で特別な教育的支援を必要としている子どもたちの教育の充実—」富山県教育委員会 2005
- 「特別支援教育指導資料第102集 特別支援教育学びQ&A（指導事例集）」富山県教育委員会 2016
- 「特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関するチェックリスト」
群馬県教育委員会事務局特別支援教育課 2011
- 「日本版Vineland-Ⅱ 適応行動尺度」日本文化科学社 2014
- 「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン参考資料③」
文部科学省 2018
- 「平成19・20年度 発達障害早期総合支援 モデル事業 研究報告書」山梨県教育委員会 2009
- 「CHEDY 保育者のための幼児用発達障害チェックリスト」文教資料協会 2014
- 「DMS-5病名・用語翻訳ガイドライン」公益社団法人日本精神神経学会 2014
- 「IN-Child (Inclusive Need Child) の教育的診断と支援システム」
琉球大学IN-Childプロジェクトチーム 2018
- 「LDI-R LD判断のための調査票」日本文化科学社 2008
- 「SP 感覚プロファイル」日本文化科学社 2015



子供のために

先生が気づいて動ける チェックリスト

平成31年3月発行

〒930-8501

富山市新総曲輪1番7号（電話076-431-4111）

発行 富山県教育委員会

編集 富山県教育委員会 県立学校課